

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田 晴久

環境技術委員長 坂本 忠彦

両団体専務理事 清原 淳平

環境技術委員会のお知らせ (第355回)

日時 平成31年2月20日(水) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第2会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第2会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、「環境問題について、昨今、想うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、プラスチックと人類および環境の共存共栄を目指して

—— 生分解性バイオマスプラスチックの観点から ——

解説 岩田忠久東京大学大学院教授・総長補佐

3、『環境技術関連ニュース NO.176』

解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る平成30年12月20日開催の第353回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。COP24がポーランドで開催された。中国の発言力が強まり、欧米の指導力減退が浮き彫りになった。中国、インドといった国は「自分たちは先進国ではなく途上国」と主張し、削減枠を緩めようと動き、他の途上国は先進国の援助額が不足していると主張。アメリカの大統領が変わればパリ協定復帰もありうるが、気温上昇抑制の実効性が確保

できるかは今後の課題である。今回のテーマはマイクロプラスチックだが、ヨーロッパではプラスチック製ストローが海亀等に害を与えるという理由で全廃するなどの動きが出ている。日本はどう動くべきかを考えたい。

次に、清原淳平専務理事より、高田秀重東京農工大学大学院教授の経歴紹介がありました。次に、高田教授より、「日本におけるマイクロプラスチックの生態系への影響」について解説がありました。九州の海岸で、中国や韓国のプラスチック製品が流れ着くことが問題となっているが、ハワイの海岸には日本のごみが漂着している。つまり、どの国も被害者であり、加害者になるのがプラスチック問題だ。浜に打ち上げられた鯨が数十枚のレジ袋を飲み込んでいたり、海鳥の胃からプラスチックが検出されたりと、目にみえるものより深刻なのが微細なプラスチックである。例えばペットボトルの蓋には環境ホルモンが含まれている。また、プラスチックは石油由来なので油性の毒物を付着する性質を持つ。これが、小魚・プランクトン→大魚→人間と食物連鎖で体内に取り込まれていく。ペットボトルは水が入ると海底に沈む。太陽光に当たらないので分解が進まず、海底に溜まる一方である。例えば皇居の堀をボーリングすると、1kg当たり7000個ものマイクロプラスチックが検出された。これに対し、世界ではレジ袋規制や使い捨て容器使用禁止などの策を講じている。日本は、中国や東南アジアに廃プラを輸出してきた分をリサイクルとして計算していたが、中国が昨年禁輸したため、対策に遅れが生じている。リサイクルにもエネルギーがかかるし、燃やすのは論外だ。プラスチック製品を使わないよう、消費者も生活習慣を変える必要があるし、メーカーを動かす必要がある。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.175』の解説がありました。今回は、CO2濃度、過去最高を更新。パリ協定の3倍の速度で温室効果ガス削減しなければ、気温上昇は抑えられないと国連報告。○日本のCO2海底貯留技術開発が盛んに。10年後の実用化へ道筋。○CO2をCOやギ酸に変える光触媒。銅やマンガン製で、レアアースを使わない。○COP24、パリ協定の実施ルールを全会一致で採択。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、2月20日(水)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp